

◇『大きな勘違い「絵になるって?」』

理事 木田洋一

よくテレビで「絵になる、ならない」と言うものだからか、取材先から「うちには絵になるものがないのですよ」とか、この商品は「絵にならないから」とか言われます。

みなさんは大きな動き、派手な動きがあることを絵になることだと考えていませんか。これは大きな勘違いです。

何が勘違いかという、まず大きな派手な動き、きれいなものでも、どこでもあるものやよく見るものであれば、それだけでは面白くありません。例えば、桜の花びらが散っていく風景は動きもあり綺麗ですが、どこでもありますよね。だから、散る花びらに加えて「何か」がないと絵になるとは言えません。今回はあえて「何か」を書きません。みなさん想像、考えてください。こうした「何か」を考えることが工夫なのです。

もうひとつは、動かないものは絵にならないと思いませんか?大抵の商品自体は動きませんが、必ず商品としての特徴は人が使って初めて出てくるのですから、人を中心に考えることもひとつの手です。

さらに前回のセミナーで「ストーリー」が大事だとお話しました。売り出したい商品には必ず、売り出したいと思ったストーリー、作るのに苦労したストーリーがあるはずだと言いましたが、これを絵にして考えるのです。セミナーで使った事例でも、私は映像でストーリーの流れをお見せしましたが、もっと気づいて欲しいのです。映像で考えるのもひとつの工夫です。

「絵にならない」ではなく、「絵」する工夫がないことが問題なのです。

5月はこのテーマで話をしてみませんか?

◇明るいコラム『ウソ臭い中にこそ真実?』

代表理事 竹原信夫

◎相変わらず文春砲が炸裂

相変わらず文春砲が炸裂しています。総務省の接待疑惑が広がり、政官民含めてズブズブの関係が明らかになっています。

訳のわからない言い訳ばかりですが、今までは誰も問題とは思わない普通のことでした。宴会、懇親会は悪いとは思わない、当たり前の日常だったのです。

◎特ダネは週刊誌

そう、ニューノーマル。世の中の常識が変わったのに、それについて行けなかったのです。そこを文春砲がうまく放ったのです。

最近の世の中を動かす大きな特ダネのほとんどは、新聞やテレビではなく週刊誌です。昔なら野党の政治家が、国会で爆弾質問をして、大きな影響を与えていました。

◎無視しても良いのに

今は、特ダネは新聞やテレビ、政治家ではなく週刊誌がリードしているのです。テレビや新聞が文春砲の後追いをしたニュースを流します。文春の新聞広告が、ニュース記事よりも早く発信さ

れています。

政治家が文春の記事を見て与党や役人に詰め寄っています。新聞、テレビ、政治家が週刊誌に負けているのです。プライドがあるなら無視しても良いのに…。恥ずかしいという意識がほとんどありません。

◎大手メディアから特ダネない

全国紙やテレビ報道記者に比べて、週刊誌の記者はかなり少ないし、正社員でもないフリーランスの記者も多いと思います。

それでも大手メディアからの特ダネはあまり出ません。いやいや、だからこそ大手メディアから特ダネがでないのです。今の体制内に取り込まれたメディアでは、この手の特ダネはないのです。

◎ズブズブのリークから

黒川元検事総長の略式起訴は、その象徴的な出来事でした。全国紙の新聞記者との賭け麻雀。これをすっぱ抜いたのも週刊誌でした。

大手メディアと政官は本来、ズブズブの関係にあるのです。巨額脱税、刑事事件、企業の不祥事などはリークから生まれた特ダネも多いです。ここは新聞やテレビが強い。

◎社員不祥事は大手優先

大手企業はメディアの主カスポンサーでもあり、悪い話はなかなか発信しにくい。小林化工など中小企業に対して大手メディアはなんの遠慮もなく、どんどん書いてくれます。

ただ、社員の不祥事となってくると、大手企業の社員は大きなニュースになりますが、中小企業は見過ごされがちです。

◎原点はカッコいいメディアではない

週刊誌の特ダネをネタにつらつら考えてきましたが、世の中大きく変わろうとするとき、メディアのあり方も変わらないと行けないと思います。メディアも原点に戻ることが大事です。

原点はカッコいいメディアではありません。瓦版のようなもの。ボクが愛読していた「噂の真相」です。そう、ウソのような本当の話、本当のようなウソの話です。

◎本当に日本一明るい？

これがメディアの原点。カッコいいメディアこそ大東亜戦争時の日本の新聞でした。日本一明るい経済新聞。本当に日本一明るいのでしょうか？

ウソ臭い中に真実が隠されていることもあると思います。